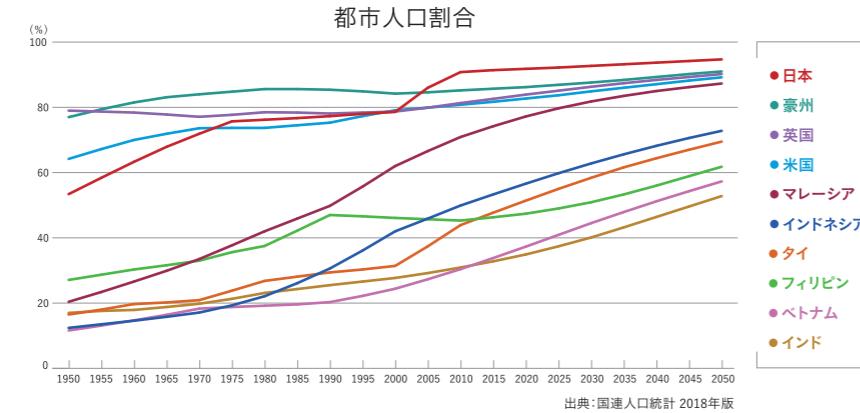


Issue

世界の都市人口は 今後増加し続けます

世界各国は、都市開発のニーズに的確に対応する必要があります。急激な都市化に伴う都市問題に対応した日本の経験は、世界の都市で役立ちます。



Achievement

J-CODE会員企業は、これまでわが国の都市の課題に ソリューションを提供し、貢献してきました

	復興期 1950~	高度経済成長期 1960~	安定成長期 1980~	成熟期 2000~
都市課題	<ul style="list-style-type: none"> 戦災による市街地の荒廃、無秩序な占用 戦後の住宅不足 	<ul style="list-style-type: none"> 大都市への人口流入 急速な都市化によるインフラ不足 モータリゼーションの進行に伴う交通渋滞 大気汚染、水質汚濁の環境問題 都市型水害の顕在化 	<ul style="list-style-type: none"> 生活水準の向上に伴う高品質の住環境ニーズの高まり 石油ショック後の省エネルギー 産業構造の変化による大規模低未利用地の発生 環境意識の高まり 大震災の発生 	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷低減ニーズの高まり 少子高齢化、人口減少 中心市街地の活力低下 住宅ストックの老朽化
ソリューション	<ul style="list-style-type: none"> 戦災復興区画整理事業 住宅及び宅地の大量供給 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通優先のまちづくり、鉄道沿線開発 建築の合理化、量産化、PC工法 都市政策を実現する法制度、インフラ整備 治水対策の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 住宅性能水準の向上 ブラウンフィールドの開発 資源循環の取り組み 水、緑環境に配慮したまちづくり 防災への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> コンパクトシティ +ネットワークのまちづくり 再開発、リニューアル、ストック再生 高齢者世帯、子育て世帯配慮 バリアフリー化への取り組み

Message

世界の社会的課題解決を目指して

海外エコシティプロジェクト協議会(J-CODE)は、アジア等の新興国での環境共生型都市(エコシティ)開発へのニーズに応えるため、2011年に設立され、構想・企画から運営まで長期的なフェーズで諸外国の社会的課題に取り組んでまいりました。

2020年代に入り、環境負荷低減やサステナブルな都市づくりがより一層求められるようになりました。これからも、J-CODEは諸外国の皆様のニーズに合わせた「環境に優しく持続可能な都市づくり」をするため、日本の幅広い業界の会員企業と行政が一体となり、社会的課題解決に向けて各国関係者の皆様と一緒に取り組んでまいります。



一般社団法人
海外エコシティプロジェクト協議会
代表理事 会長
東急株式会社
代表取締役 会長
野本弘文

お問い合わせ先 一般社団法人 海外エコシティプロジェクト協議会事務局(UR都市機構内)

〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー Tel・045-641-4771 HP・<http://www.j-code.jp/>



J-CODE

一般社団法人
海外エコシティプロジェクト協議会
Japan Conference on Overseas Development of Eco-Cities



Objective

J-CODEは、日本の技術や経験を活用した 持続可能な都市を推進します

アジア等の新興国において急速に高まる環境共生型都市開発へのニーズに一元的に応えるため、幅広い業界にわたる我が国国内の企業が「ジャパンチーム」を形成し、構想・企画といった川上段階から官民一体となって環境共生型都市開発事業の推進に貢献することを目的とする(定款第3条)

沿革 2011年10月 海外エコシティプロジェクト協議会設立

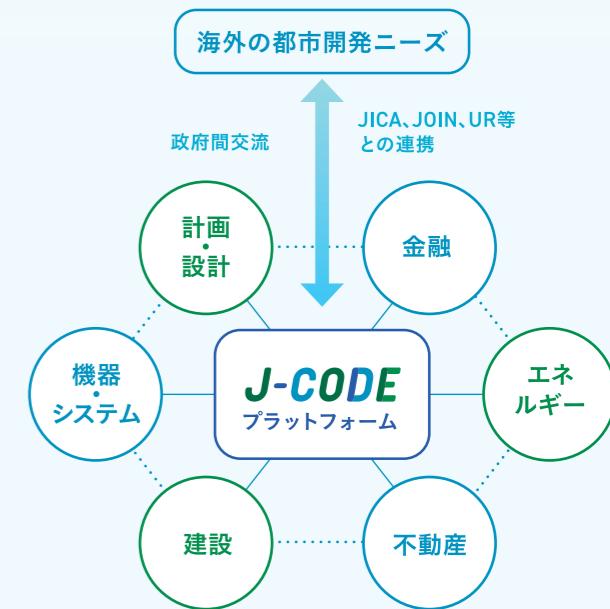
2014年 7月 一般社団法人化

2014年10月 株式会社海外交通・都市開発事業支援機構(JOIN)設立発起人として出資

Organization

J-CODEは、都市開発のフェーズに対応する 官民連携プラットフォームです

会員は、都市開発に必要な計画・設計、開発、インフラ、建設、金融等の多分野で経験を積んだ日本企業です。国土交通省や独立行政法人国際協力機構(JICA)、JOIN、地方自治体等と連携して活動し、「官民プラットフォーム」を構築しています。事務局は、日本の都市開発や住宅開発を支えた独立行政法人都市再生機構(UR)です。



J-CODEは、日本で培った経験を世界の約50ヶ国の都市開発に活かしています



誰も取り残さない 包摂的で多様な地域社会

高齢者、障害者、女性、子供、外国人、貧困者等、誰もが安心して住み続けることを可能にします。都市のサービスへのアクセスを向上させ、人にやさしい、人間中心のまちになります。



J-CODEは、
都市開発を長期的な視野をもって、
構想から事業実施、管理運営の各フェーズで、
技術と経験を磨いてきました。



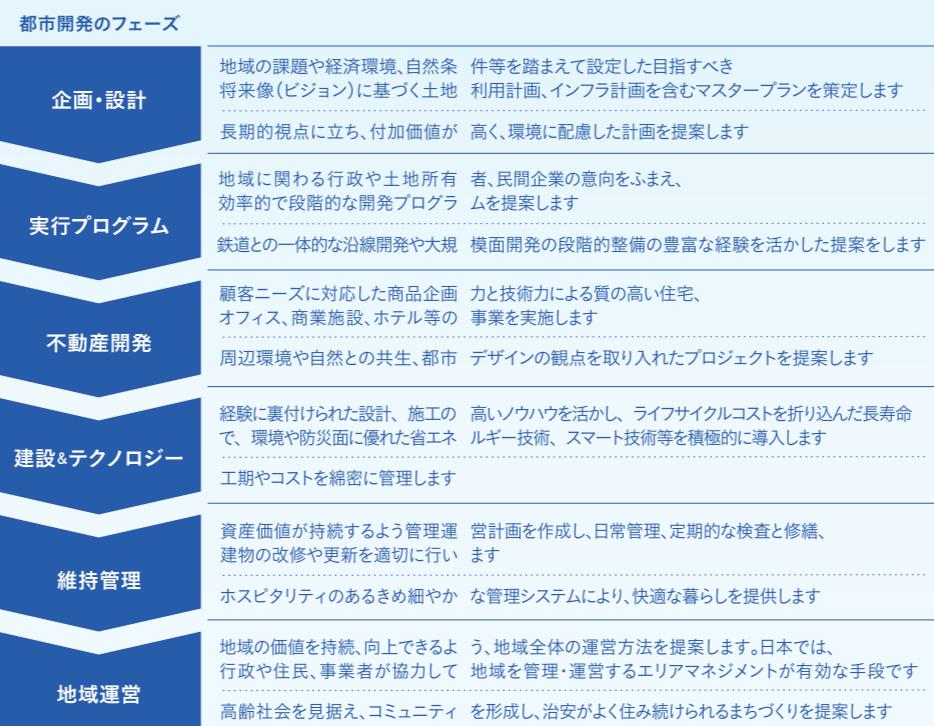
快適で暮らしやすく 魅力のあるまち

快適で魅力あふれる暮らしやすいまちをつくり、住む人、働く人、訪れる人等、多くの人の流れを都市に生み出します。まちや近隣地域を人々が大切にし、新しい文化、産業、コミュニティを生み出し、経済活動も活発になります。



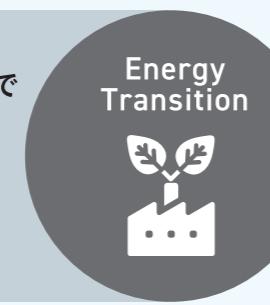
安全安心で災害の適応と 緩和を推進

自然災害等リスクを低減し、災害が発生しても迅速に元の暮らしに復旧復興できるよう都市の強靭化を図ります。気候変動に対する適応と緩和策をまちづくりに取り入れることは、安心して暮らせる社会経済活動の基本です。



エネルギートランジションで 脱炭素を進める仕組み

最新エネルギー技術をまちづくりに導入し、脱炭素の目標に貢献します。エネルギー・マネジメントにより、都市のエネルギー効率を全体として高めます。



J-CODE

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

J-CODEは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

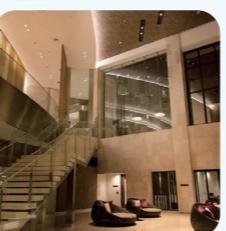
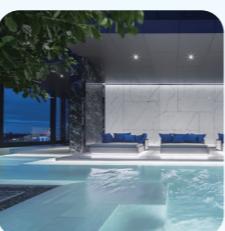
J-CODEの強みを活かした提案

- 多彩な企業のソリューション
- 丸ごと都市開発の実績
- 官民一体の総合力



都市を長く使い続ける工夫

既存の住宅・建築物を時代のニーズに応じて建て替えやリニューアルを行うことで、「建てては壊す」ではなく、長く、大切に使います。



ベトナム
ウォーターフロントシティ

ベトナム
ビンズ新都市

ベトナム
サイゴンセンター

タイ
ホテルニッコー・アマタシティジョンブリ

タイ
ハイドヘリテイジンロー

フィリピン
ボニファシオ・グローバルシティ

インドネシア
シマトゥバンエリア開発

インドネシア
スナヤン・スクエア

中国
上海環球金融中心及び
ペデストリアンデッキ

英国
ブラックハウス

米国
タウンレイク